

教 科 公 民

科目 倫 理	(選択)	授業時数 2 単位
		履修学年 3 学年

目 標	ソクラテス、イエス、仏陀、孔子など古今東西の先哲の思想に触れながら、自己の人生観・世界観・人間観を深めるとともに、広い視野に立ち人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
-----	---

●学習内容

1 学期	2 0 時間	2 学期	3 0 時間	3 学期	2 0 時間
第 1 章 哲学の始源：ギリシア思想	20	第 2 章 唯一神の宗教： キリスト教・イスラム教	20	第 2 節 仁と礼の教え— 儒教	20
1 神話から哲学へ—自然哲学者たち		第 1 節 愛の教え— キリスト教		1 儒教の教え	
2 知と徳をめぐる問い— ソクラテス		1 ユダヤ教		2 儒教の展開	
3 理想主義的なあり方— プラトン		2 イエスの思想		3 道家の思想	
4 現実主義的なあり方—アリストテレス		3 世界宗教への展開			
5 幸福をめぐる問い—ヘレニズムの思想		第 2 節 戒律と平等の教え—イスラム教		第 4 章 芸術と倫理	
		第 3 章 東洋思想の源流： 仏教・儒教			
		第 1 節 智慧と慈悲の教え— 仏教	10		
		1 パラモン教			
		2 仏陀の思想			
		3 仏教とその後の展開			

教材
教科書：「703 高等学校 新倫理」清水書院 資料集：「アプローチ倫理資料 PLUS」とうほう 自主作成教材(プリント)

授業の進め方
教科書の叙述を行間まで深く読み込むとともに、資料集や他の原典資料などにも触れ、思想家がその生涯をかけて我々に伝えたかったことは何かを追究する。また時間的余裕があれば、倫理の授業を通して生徒みずから考えたことをレポートにまとめる機会を設ける。

●身に付ける能力とそのレベル

評価の観点	知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
活用できる (できる)	古今東西の幅広い知的蓄積を通して現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手がかりとなる概念や理論について十分理解している。また諸資料から、人間としてのあり方生き方に関わる情報をよりよく調べまとめることができる。	他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。また現代の倫理的諸課題を解決するため倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明や対話することができる。	人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。
習得する (わかる)	古今東西の幅広い知的蓄積を通して現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手がかりとなる概	他者と共に生きる自己の生き方について、思索することができる。また現代の倫理的諸課題を解決す	人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について追究したり、他者と共に生きる自己を形成し

		念や理論について理解している。 また諸資料から、人間としてのあり方生き方に関わる情報を調べまとめることができる。	るため倫理に関する概念や理論などを活用して思考し、説明や対話をすることができる。	ようとしている。
評価方法		定期テスト・課題・ノート・授業観察	定期テスト・課題・ノート・授業観察	授業に取り組む姿勢や意欲（論文・レポートなどの自主的な取組も含む）

単元別 評価規準

第1章 哲学の起源：ギリシア思想

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	古代ギリシアの先哲が論じた人間観や人生観を原典資料から適切に読み取り、理解を深めることができる。またそれらの諸概念を自己の課題と結びつけて説明することができる。	古代ギリシアの思想の知見を用いて、人間存在及び他者と共によりよく生きる自己の生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。	人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究するしようとしている。
	習得する (わかる)	古代ギリシアの先哲が論じた人間観や人生観を原典資料から読み取り、理解することができる。またそれらの諸概念を説明することができる。	古代ギリシアの思想の知見を用いて、人間存在及び他者と共に生きる自己の生き方についての考察をし、表現することができる。	人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について追究しようとしている。

第2章 唯一神の宗教：キリスト教・イスラム教

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の倫理に関する諸概念を原典資料から適切に読み取り、十分に理解を深めることができる。またそれらの諸概念を自己の課題と結びつけて適切に説明することができる。	イエスの言行やパウロの言葉、古代・中世のキリスト教神学の知見を用いて、人間としてのよりよい生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。	宗教における倫理に関する諸概念の学習を通して、主体的に他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。
	習得する (わかる)	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の倫理に関する諸概念を原典資料から適切に読み取り、理解を深めることができる。またそれらの諸概念を自己の課題と結びつけて説明することができる。	イエスの言行やパウロの言葉、古代・中世のキリスト教神学の知見を用いて、人間としてのよりよい生き方についての考察をし、表現することができる。	宗教における倫理に関する諸概念の学習を通して、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。

第3章 東洋思想の源流：仏教・儒教

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	仏教、儒教、道家の思想の倫理に関する諸概念を原典資料から適切に読み取り、十分に理解を深めることができる。またそれらの諸概念を自己の課題と結びつけて適切に説明することができる。	『論語』『孟子』など原典資料の読解を通して、人間としてのよりよい生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。また性善説や性悪説といった対立する視点から現代の様々な課題を考察し、捉えることができる。	仏教や儒教における倫理に関する諸概念の学習を通して、人間について深い洞察を行い、また共感的理解の重要性について主体的に理解しようとしている。
	習得する (わかる)	仏教、儒教、道家の思想の倫理に関する諸概念を原典資料から適切に読み取り、	『論語』『孟子』など原典資料の読解を通して、人間としてのよりよい生き方に	仏教や儒教における倫理に関する諸概念の学習を通して、人間について洞

		理解を深めることができる。またそれらの諸概念を自己の課題と結びつけて説明することができる。	についての考察を深め、表現することができる。また性善説や性悪説といった対立する視点から現代の様々な課題を捉えることができる。	察を行い、また共感的理解の重要性について理解しようとしている。
--	--	---	--	---------------------------------

第4章 芸術と倫理

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	作品の特徴や作品の社会背景などから、芸術家が作品に込めた問いや思想などを適切に読み解くことができる。	芸術作品を通して、人間としてのあり方生き方について思索を深め、適切に表現できる。	美を求める心が人生を豊かにするものであることを十分に理解し、美の概念を自らの生き方と関わらせて主体的に追究しようとしている。
	習得する (わかる)	作品の特徴や作品の社会背景などから、芸術家が作品に込めた問いや思想などを読み解くことができる。	芸術作品を通して、人間としてのあり方生き方について思索し、表現できる。	美を求める心が人生を豊かにするものであることを理解し、美の概念を自らの生き方と関わらせて追究しようとしている。